

		公表		事業所における自己評価総括表	
○事業所名		児童発達支援事業所 発達応援スクール A+			
○保護者評価実施期間		2025 年 7 月 2 日		～	2025 年 7 月 22 日
○保護者評価有効回答数		(対象者数) 13			(回答者数) 12
○従業者評価実施期間		2025 年 7 月 3 日		～	2025 年 7 月 22 日
○従業者評価有効回答数		(対象者数) 5			(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日		2025 年 8 月 28 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムが固定化していない	- 子ども一人ひとりの発達状況や興味関心に合わせて活動内容を職員同士で話し合っている - その日の子どもの気分や調子、興味に合わせて「今」に応じた支援ができるように、職員間でコミュニケーションを取っている	職員同士で振り返りや記録をし、次の活動に活かしています
2	職員が共感的に支援している	- 視線や表現に注目し、言葉にならない思いにも気づけるように心がけている - 子どものペースを尊重し安心できる距離感を大事にしている - 肯定的な声掛けや気持ちに寄り添う言葉を意識している	子どもの反応や関わり方について、職員同士で振り返りや話し合いをし、支援の質を高めていけるように努めています
3	職員同士の関係性が良好で・コミュニケーションが円滑	- 共感と洞察を活かしたコミュニケーションスキルなどの研修を行い、実践しながら職員同士のつながりも深まり、自然と仲の良い関係が築かれている - 得意を活かした役割分担をし、補い合う風土作り	- 常に報連相できる環境を整える - 一緒に悩み、一緒に喜ぶ経験が関係性を深めるので、現場職員と管理職が子どもの課題に共有認識を持つ
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発信している情報が保護者に伝わっていないケースが見受けられる	- 伝達手段の一方方向性 - 情報量やタイミングの不適切さ	- 提示のみなど一方向に発信されているものは、お便りでも周知し、わかりやすい工夫をしていく - HUG（連絡帳）にのせることで既読を確認 - 専門用語的な言葉はわかりやすくしたり、普段から伝えていくようにしていく
2	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会を設けられていない	- 保育所や幼稚園等との間で、連携のルールや窓口が明確でないことが多く、交流の企画が進みにくい - スケジュールやカリキュラムの違いにより、日程や内容の調整が難しい	- お互いに見学などをし、園との信頼作りや情報共有をおこなっていけるように努めていく - いきなりの合同活動ではなく、負担の少ない方法を考えていく（園庭開放など）
3	家族に対して家族支援プログラムや家族等の参加できる研修の機が今は行えていない (開催しても人が集まらない)	- 時間帯や開催内容などが家族にとって参加しにくいものになっている可能性 「研修＝負担」「行く意味があるのかわからない」というイメージ	事前にアンケートでニーズを把握し、内容の見直しを検討していく